

ラグビーワールドカップ 2019™
東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた
横浜市の取組(素案)

< 目 次 >

- 1 ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」について P 1

- 2 取組
 - 「柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし」の取組 P 2
 - 「柱2 スポーツを通じて横浜を元気に」の取組 P 8
 - 「柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり」の取組 P 15
 - 「柱4 横浜を世界に魅せる」の取組 P 20

- 3 両大会に向けた関連取組 P 27

- 4 主なスケジュール P 30

1 ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」について

平成 28 年 11 月 17 日に官民連携組織「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック 横浜開催推進委員会」を立ち上げ、「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン～横浜のさらなる飛躍とレガシーの創造～」を策定しました。

そこに掲げられている「取組の 4 つの柱」に基づいて、横浜市が行う両大会に向けた取組や、取組から生まれるレガシーを、ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」としてまとめました。

横浜市では、両大会の開催を契機に、スポーツ振興はもとより、文化芸術の振興、経済、教育分野、シティプロモーションなど幅広い取組により、次世代を担う子どもたちへの「贈り物」となるような有形無形のレガシーを遺していきます。

《取組の 4 つの柱（「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン」より）》

- (1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし
- (2) スポーツを通じて横浜を元気に
- (3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり
- (4) 横浜を世界に魅せる

※「横浜市の取組」に掲載している取組の事業費については、毎年度の予算編成の中で決定します。

2 取組

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

<考え方>

ラグビーワールドカップ 2019™は決勝戦開催都市として、東京 2020 オリンピック・パラリンピックは競技開催都市として、関係機関と連携して円滑な大会運営に取り組むとともに、国内外から訪れる皆様を全力でおもてなしします。

ソフト・ハード両面でのバリアフリーを推進するとともに、開催都市プロモーション・広報やイベントなどによる機運の醸成や、トレーニングキャンプの受入れ等を通じた国際交流などで両大会を大いに盛り上げ、ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに対して最大限の貢献をしていきます。

- 1 本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します。
- 2 両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます。
- 3 トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組めます。



《取組から生まれるレガシー》

- a 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現
- b ソフト・ハード両面でのバリアフリーの推進
- c ボランティア文化の醸成・定着
- d トレーニングキャンプ実施国・チームと地域とのつながり
- e 多文化共生を尊重する意識や国際感覚の醸成

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でもてなし

分野	本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(1/2)			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① 競技会場における各種計画(警備、安全確保、救急医療体制など)の策定・実施				
ア 危機管理・安全対策 組織委員会や警察等関係機関と連携を図りながら、選手、大会関係者、観戦客等の安全対策に取り組みます。 大会開催期間中の有事に備え各種訓練を実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ・会場周辺の安全対策の推進 ・組織委員会等と連携した各種計画の策定、大規模災害発生時を想定した事前対策の推進 ・関連施設等の防火・安全対策 ・各種災害対応訓練の実施(図上訓練、テロ災害対応訓練、警察など関係機関と連携した合同訓練など) 		H29～32	市民局 総務局 消防局 等	a 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現
イ 交通・輸送対策 組織委員会と連携し、選手、大会関係者の円滑な輸送を図るとともに、鉄道等公共交通機関における混雑緩和対策に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・警察、輸送事業者及び道路管理者等と連携した交通輸送体制の確立(公共交通機関の増発、終電延長他) ・本市の広報媒体等を活用した事前広報 		H29～32	市民局 道路局 交通局 等	
ウ 救急医療体制の構築 大会開催期間中の救急医療体制を構築します。 <ul style="list-style-type: none"> ・大会開催期間中の救急医療体制の確立 ・テロ等大規模災害発生による多数負傷者発生時の搬送体制の確立 		H29～32	市民局 医療局 医療局病院経営本部 消防局 等	
エ 外国人診療の支援 滞在中の外国人が安心して医療を受けられるような体制を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ・J C I (※) 認証取得に向けた病院支援 ※医療の質や安全性、継続的な品質改善を評価する国際的な医療機能評価のこと。		～H32	医療局 医療局病院経営本部 国際局	

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野	本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(2/2)			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
② 競技会場における必要な整備やアクセスルートなども含めたバリアフリーや屋外広告物への対応				
ア 会場整備				
<p>会場施設等の必要な改修を行うとともに、障害者や高齢者をはじめ、誰もが円滑に移動でき、安全に観戦できるよう、バリアフリー対応の充実に取り組みます。</p> <p><横浜国際総合競技場></p> <ul style="list-style-type: none"> ラグビーワールドカップ2019TM決勝戦の開催に向けた照明設備を更新し、競技場の魅力づくりを図ります。 国際大会の開催時に安全や機能を確保するため、競技用の場内放送設備等の保全工事やトイレの増設、洋式化やテレビ放送関連設備の更新などを実施します。 <p><横浜スタジアム></p> <ul style="list-style-type: none"> 野球・ソフトボールの開催に向けて、大会組織委員会等と調整を行います。 		～H32	市民局 健康福祉局 環境創造局 等	b ソフト・ハード両面でのバリアフリーの推進
イ 屋外広告物への対応				
<p>両大会スポンサーのマーケティング活動を妨害しないよう、アクセスルート上の屋外広告物について組織委員会と連携して対応します。また、景観維持と安全対策のため、期間前と期間中に会場周辺や市内主要駅周辺での路上違反広告物の除却を強化します。</p>		H31・32	市民局 都市整備局	a 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現
③ 組織委員会と連携した大会運営ボランティアの育成・活用				
ア 大会運営ボランティアの育成・活用				
<p>組織委員会と連携し、大会運営を担うボランティアの育成に取り組みます。</p>		H29～32 (H33以降も継続予定)	市民局	c ボランティア文化の醸成・定着

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野	両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(1/2)		
	主な取組の内容	目標時期	所管局区 取組から生まれるレガシー
① 機運の醸成と両大会を盛り上げるための広報・イベントの実施			
ア 既存広報誌、市ホームページを活用した広報 広報計画を策定し、「広報よこはま」等の既存広報ツールや地下鉄駅を活用した効果的な大会のPRを行います。競技開催予定都市である横浜を紹介するPR動画を作成し、イベント等で放映することにより機運の醸成を図ります。 ・ 広報計画の策定 ・ 「広報よこはま」の活用 ・ PR動画の作成・活用 ・ 地下鉄駅を活用したPRの実施 他	~H29 ~H32 H29~32 H31・32	市民局 交通局	a 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現
イ 情報発信拠点の設置 市内の主要駅にPRスペース等を設置し、両大会の認知度の向上や、大会関連イベントの広報に取り組みます。	H30~32	市民局 等	
ウ 盛り上げイベント等の実施 節目ごとのイベントの開催や、各区における盛り上げイベント等の実施により、両大会に向けた機運醸成を図ります。 ・ 限定乗車券の販売 ・ 節目ごとのカウントダウンイベントの開催 ・ カウントダウンボードの設置 ・ 各区における機運醸成イベントの実施	H31・32 H30~32 H29~32	市民局 交通局 等	
エ 既存イベントと連携した機運醸成 区民まつりや消防出初式等各種既存イベントと連携したPR活動や、パラリンピック競技体験等を実施します。	~H32	市民局 各区局 等	
オ テストイベントと連携した機運醸成 テストイベントにおけるPR活動の実施により、大会本番に向けた盛り上がりを高めます。	H30・31	市民局 等	
カ 街の装飾 バナー等の装飾によるPR活動を行います。 ・ 競技会場や競技会場周辺及び市内主要駅等へのバナーなどの装飾によるPR活動 ・ 地元商店街と連携したPR活動 ・ まちなみラッピングの検討・調整	H31・32	市民局 経済局 交通局 資源循環局 工事实施所管局 各区 等	

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野	両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(2/2)			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
	キ 市民参加による聖火リレー 東京2020大会に関連して実施される聖火リレーについて、多くの市民が大会に関わる機会を増やすため、リレールート誘致に取り組みます。	H32	市民局	a 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現
	ク パブリックビューイングの実施 競技会場で観戦できない方々のためにパブリックビューイングを開催し、多くの市民が感動を共有できる環境を整えます。	H31・32	市民局 等	
② 来訪者をおもてなしするボランティアの育成・活用に向けた取組				
	ア 都市ボランティアの育成・活用 組織委員会等と連携しながら、都市ボランティアの育成や活用に取り組みます。 ・活動内容、活動場所、規模の検討 ・申込方法、時期、研修体制、ユニフォーム、マニュアル等の検討 ・外国人住民の協力による外国語ボランティアの育成	H29～32	市民局 国際局 等	a 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現 c ボランティア文化の醸成・定着
③ ラグビーワールドカップ2019™ファンゾーンの設置による来訪者へのおもてなし				
	ア ファンゾーンの設置 ラグビーワールドカップ2019™の開催に伴い、公共のエリアでパブリックビューイングなどラグビーファン向けにラグビーワールドカップに関係する体験を提供する「ファンゾーン」を設置します。	H31	市民局	a 高い大会開催能力と世界に誇るホスピタリティを持つまちの実現

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野	トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます		
主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① トレーニングキャンプの受入に向けた調整			
ア 事前キャンプの受入 関係団体と連携し、東京2020大会に出場する英国オリンピック代表チームの事前キャンプを受入れます。併せて、国際都市としての更なる発展に向けて新たな受入れについて検討します。 <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用契約の締結 ・大会開催時の事前キャンプの受入 	H29 H32	市民局 国際局	d トレーニングキャンプ実施国・チームと地域とのつながり
② ホストタウン構想の実施などによる国際交流の推進			
ア ホストタウンの取組 英国のホストタウンとしての取組を通じ、英国関係者等と市民の皆様の交流機会を創出します。新たな事前キャンプの受入れに伴うホストタウン登録について検討します。 <ul style="list-style-type: none"> ・英国関係者と連携した交流 ・大会等に参加するために来日する英国代表選手との交流 	H29～32 H31～32	市民局 国際局 等	d トレーニングキャンプ実施国・チームと地域とのつながり
③ 文化の異なる人々と協働する姿勢を身につけた人材の育成			
ア グローバル人材の育成等 グローバル人材の育成に向けた学校教育における取組や、多文化共生活動への支援を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生からの外国人講師による小学校国際理解教室の実施や英語教育の推進 ・各校に在籍する外国籍等児童生徒との交流を通じた異文化理解・多文化共生意識の醸成 ・グローバル人材の育成に向けた、授業等における外国人との異文化交流の実施 ・市民団体やNPO等が取り組む、地域の多文化共生活動等に対する支援を実施 	～H32 (H33以降も継続予定) H29～32	教育委員会 国際局	e 多文化共生を尊重する意識や国際感覚の醸成

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

<考え方>

ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、地域スポーツや障害者スポーツをはじめ、さらなるスポーツ振興に取り組み、障害の有無や世代に関わらず子どもから高齢者まで全ての市民がスポーツや運動に親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことができる、元気な横浜の実現を目指します。

- 1 ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます。
- 2 障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことができるよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます。
- 3 子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます。
- 4 本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます。



《取組から生まれるレガシー》

- a スポーツ実施状況の向上
- b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進
- c 子どもたちの体力向上
- d 市民の健康増進

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野	ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(1/3)			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① オリンピアン・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上				
ア オリンピック・パラリンピック出場経験者の派遣				
	東京2020大会の開催に向けて、オリンピック・パラリンピック出場経験者を招へいたイベントを開催するなど、市内のスポーツ振興と大会に向けた機運の醸成を図ります。	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 c 子どもたちの体力向上 d 市民の健康増進
イ 小中学生とオリンピック・パラリンピック出場経験者等との交流				
	はまっ子スポーツウェーブ（小学校体育大会・小学校水泳大会等）や中学校総合体育大会などにオリンピック・パラリンピック出場経験者等トップアスリートを招へいし、演技の実演や講演を実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局 教育委員会	a スポーツ実施状況の向上 b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進 c 子どもたちの体力向上 d 市民の健康増進
ウ 市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣				
	ラグビーワールドカップ2019™の開催に向けて、市内小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 c 子どもたちの体力向上 d 市民の健康増進
エ トップアスリート等との連携・協力				
	JOCパートナー都市協定を通じてのオリンピックやプロスポーツチームあるいはトップアスリートが立ち上げたNPO法人等と連携・協力することにより、トップアスリートを学校や地域に派遣し、子ども達や多くの市民が一流のアスリートと触れ合う機会を提供し、スポーツへの関心を高めます。	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進 c 子どもたちの体力向上 d 市民の健康増進
オ 大規模スポーツイベントの誘致・開催				
	国際大会や全国大会などの大規模イベントの誘致に取り組み、市民のスポーツ観戦やボランティア活動に参加する機会を増やします。また、魅力的な大規模イベントを誘致・開催することにより、世界や全国に向けた横浜の知名度のアップや、経済及び地域の活性化などにも貢献していきます。	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 d 市民の健康増進

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野	ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(2/3)			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
	<p>カ スポーツ遺産の保存・活用 横浜は、テニス、ラグビー、競馬等、多くのスポーツ文化の発祥の地であり、その歴史や伝統を継承していきます。 また、ワールドカップサッカー決勝戦の会場となった横浜国際総合競技場等のスポーツ施設やボランティア等の人的資源、大規模スポーツイベントの運営知識やノウハウなどのスポーツ遺産を未来の横浜の子どもたちへの財産として残します。</p>	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 d 市民の健康増進
<p>② 市民参加型スポーツイベントの充実や横浜文化体育館再整備等による場の拡充など、地域スポーツの振興</p>				
	<p>ア スポーツボランティアの育成・支援 スポーツイベント等の運営を支えてくれるスポーツボランティアを育成・支援します。また、スポーツボランティアが継続的な活動ができる仕組みや、ボランティアとしての功績を称える環境を整えます。 「横浜市スポーツボランティアセンター（仮称）」を設置し、市民が積極的・自発的にスポーツに関われる体制づくりやその支援を行います。</p>	H29～32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 d 市民の健康増進
	<p>イ 市民大会・区民大会の定期的な開催(初心者に参加できる工夫) 市民大会や区民大会を実施している競技団体と連携しながら、初心者が安心してスポーツ大会に参加できる環境を整えます。</p>	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局 各区	a スポーツ実施状況の向上 c 子どもたちの体力向上
	<p>ウ 大規模屋内スポーツ施設(スケート場、武道館等)の再整備 関内・関外地区の街づくりを進める中で、横浜文化体育館の再整備をすすめます。その際、武道を行うことのできる環境を整備します。 また、老朽化した神奈川スケートリンクの再整備を行いました。今後施設のさらなる有効活用を行います。</p>	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 d 市民の健康増進
	<p>エ スポーツ情報等の提供 市民が「する」「観る」「支える」といった様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツイベントの開催情報やスポーツボランティアに関する情報、スポーツ指導者、スポーツ施設の利用に関する情報等を横浜市のホームページや広報紙、または、(公財)横浜市体育協会のスポーツ情報サイト「ハマスポどっとコム」やホームページ等を通じて提供します。また、携帯端末等の身近な媒体でも情報が提供できるようにしていきます。</p>	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進 c 子どもたちの体力向上 d 市民の健康増進

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野	ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(3/3)			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
③ ラグビーワールドカップ2019™開催を契機としたラグビーの普及・啓発				
ア 小学校派遣事業(市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣)《再掲》 ラグビーワールドカップ2019™の開催に向けて、市内18小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局	a スポーツ実施状況の向上 c 子どもたちの体力向上 d 市民の健康増進	
イ カウントダウンイベントの開催 ラグビーワールドカップ2019™の開催期間となる9月20日から11月2日を目途に、大会に向けての機運醸成を図るため、横浜国際総合競技場等で開催が予定されるラグビーの試合に併せ、各種イベントを実施し、大会の認知度を盛り上げにつなげていきます。	H29・30	市民局	a スポーツ実施状況の向上	
ウ 日本代表戦やジャパントップリーグ等の試合誘致 2019年に向け、ピッチの検証や運営シミュレーションを行うとともに、機運醸成やラグビー競技の普及を目的に計画的にラグビーの試合を誘致します。	～H31	市民局	a スポーツ実施状況の向上 d 市民の健康増進	

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野	障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことができるよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① 学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発(パラリンピック競技体験等)				
ア 障害者スポーツの場の確保と種目の普及				
障害のある方がいつでも身近な地域で障害者スポーツを行えるようにするため、ウィリング横浜用途廃止部分を活用した新たな拠点の整備や、既存の各区スポーツセンター及び地区センターなどの地域資源と連携を進め、障害者スポーツを行える場の確保を進めます。また、自主的に取り組みやすい種目を地域に広げていきます。	～H32 (H33以降も継続予定)	健康福祉局 市民局	b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進	
イ 障害の有無に関わらず、誰もが一緒に参加できるスポーツイベントの実施				
障害の有無に関わらず共に楽しむことができるよう、障害者団体や競技団体、地域スポーツ団体と連携しながら、誰もが安心して参加できるスポーツイベントを検討し、実施します。	～H32 (H33以降も継続予定)	健康福祉局	b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進	
② 横浜ラポールと連携した取組、身近で活動できる場の確保、特別支援学校等におけるスポーツ活動の活性化など、スポーツ関係団体や障害者団体とも連携した障害者スポーツの推進				
ア 地域への障害者スポーツに関するノウハウの浸透				
「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」と協力・連携し、各区のスポーツセンターやスポーツ施設の職員等に、定期的（年1～2回）に研修を実施し、障害者スポーツの開始及び継続していくためのノウハウを有する人材の育成を進めるとともに、様々な場面で活躍できる仕組づくりを進めます。	～H32 (H33以降も継続予定)	健康福祉局	b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進	
イ 特別支援学校におけるスポーツ選手育成強化事業				
東京2020大会を契機に、障害者スポーツの普及・促進を行うほか、特別支援学校の児童生徒がスポーツで世界を目指すことを支援するなど、障害のある子どもたちの自立と社会参加につなげます。	～H32 (H33以降も継続予定)	健康福祉局 教育委員会	b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進	
ウ パラトライアスロンの強化				
パラトライアスロン競技の強化拠点として横浜ラポールを提供しており、東京2020大会に向けて、競技の普及・強化に向けた取組を推進します。	～H32 (H33以降も継続予定)	市民局 健康福祉局	b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進	

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野	子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① 市内小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校と連携した取組				
ア 体力アップよこはま2020プランに基づく取組の実践				
<p>「体力アップよこはま2020プラン」に基づき、学校・家庭・地域の連携による体力向上に向けた取組を実践推進します。 また、市内小中学校全校で体育・健康に関する指導の全体計画である「体育・健康プラン」を作成し、プランに基づき、学校の特色を生かした「体力向上1校1実践運動」を実施します。</p>	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<p>c 子どもたちの体力向上</p>	
イ 食育の推進				
<p>日常生活をより健康的に送り、スポーツを活発に行うために、スポーツ団体（プロスポーツチームを含む）、教育委員会や食育関係団体と連携・協力しながら、子どもや保護者及び指導者等に食育の普及啓発を行ってまいります。</p>	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 教育委員会</p>	<p>c 子どもたちの体力向上</p>	
ウ 東京2020大会を契機とした、運動意欲の向上や運動機会の充実				
<p>東京2020大会を契機とし、オリンピック・パラリンピアン・トップアスリートとの交流等の機会を通して、運動意欲の向上や、関係機関と連携した運動機会の拡充を図ります。</p>	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<p>c 子どもたちの体力向上</p>	
エ 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成				
<p>横浜型小中一貫教育の推進により児童生徒の学力向上と児童生徒指導の充実を図るとともに、「横浜市子ども学力向上プログラム」、「『豊かな心の育成』推進プログラム」、「体力アップよこはま2020プラン」等、知・徳・体のプログラムに基づき、取組を推進します。</p>	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<p>c 子どもたちの体力向上</p>	
オ 幼児期における運動習慣の啓発・普及活動				
<p>体力の重要性に関する保護者の啓発セミナーや親子で体験できる各種運動プログラム等を実施します。</p>	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>こども青少年局 市民局</p>	<p>c 子どもたちの体力向上</p>	
カ 子どもの体力向上事業の実施及び拡充				
<p>中休みや放課後等を活用して、児童が関心を持てる運動やスポーツを紹介し、定期的に運動に親しむ機会や必要な用具等を提供（貸与）し、児童が主体的、日常的に体を動かすことのできる「いきいきキッズ事業」を拡充し、引き続き実施していきます。 また、地元の大学と連携し、学校や地域に体育部所属の学生等を派遣し、授業の補助や教室事業等を実施します。</p>	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>市民局</p>	<p>c 子どもたちの体力向上</p>	
② 横浜商業高等学校におけるスポーツマネジメント人材の育成				
ア スポーツマネジメント人材の育成				
<p>横浜商業高校スポーツマネジメント科において、横浜市スポーツ医科学センターやプロスポーツ関係者等との連携とともに、トップアスリート、スポーツ関係研究者・経営者等に触れる機会を設け、競技力の向上及びスポーツ振興に関わる人材を育成します。</p>	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<p>c 子どもたちの体力向上</p>	

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野	本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます		
主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① ウォーキングなどの運動による生活習慣の改善や、日常生活の中で取り組める仕組みなどによる健康づくりの推進			
<p>ア 370万人の健康づくりの推進 歩数計を活用した「よこはまウォーキングポイント」や、様々な健康行動を促す健康イベントなど、日常生活の中で楽しみながら継続して取り組める仕組みにより、市民の健康行動の習慣化を図り、地域とも連携しながら健康づくりを推進します。</p>	～H32 (H33以降も継続予定)	健康福祉局 環境創造局 道路局 各区	a スポーツ実施状況の向上 d 市民の健康増進
② 高齢者も楽しむことができるスポーツの推進ほか生涯スポーツの推進			
<p>ア 高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施 高齢者のニーズが高い、健康づくりや体力づくりの教室などのほかに、介護予防教室など様々なニーズを考慮しながら、高齢者のスポーツ教室やスポーツイベントのより一層の充実を図ります。</p>	～H32 (H33以降も継続予定)	健康福祉局	a スポーツ実施状況の向上 d 市民の健康増進
<p>イ 生涯スポーツへの支援(シニアスポーツの展開・レクリエーションを主体としたスポーツ大会の開催等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じて生きがいづくりや社会参加を促進するため、シニアスポーツの展開を図るとともに、健康・体力づくり運動を推進し、暮らしの一部として習慣化することを支援します。また、スポーツ等に親しむことのできる機会や場の提供を推進します。 ・横浜市老人クラブ連合会などを通じ、健康の保持増進と高齢者相互の親睦を図るため、ゲートボール、グランドゴルフなどの各種スポーツや、レクリエーションを主体としたスポーツ大会を開催します。 ・市内の歴史を学ぶことのできるコースなど、ウォーキングコースを市内全域に選定し、マップの作成配布のほか、参加者のインターネット上の交流などを通じたウォーキング人口の拡大を目指します。 ・高齢者を中心とするスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な視点として毎年開催される「全国健康福祉祭(ねんりんピック)」に市代表選手団を派遣し、健康・スポーツ活動等の高揚を図ります。また、2021年神奈川県大会の開催に向け、スポーツを通じた高齢者の健康づくりの機運を盛り上げていきます。 ・身近な地域で健康づくりやスポーツ、レクリエーションに取り組めるよう、各区スポーツセンターで、子どもから高齢者までを対象とした各種スポーツ教室を開催します。 ・誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を目指し、各自の興味やレベルに応じて参加できる多世代・多様目型のクラブ(総合型地域スポーツクラブ)の育成を推進し、高齢者や障害者をはじめ誰もが身近な地域でスポーツを実施する機会を提供します。 ・高齢者向けの健康づくりの取組として、健康系運動器具の設置された公園での運動プログラムの紹介等を通して、身近な運動の普及を目指します。 	～H32 (H33以降も継続予定)	健康福祉局 市民局 各区	a スポーツ実施状況の向上 b パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進 c 子どもたちの体力向上 d 市民の健康増進

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

<考え方>

人々の活力や市民生活の向上につながる文化芸術の振興を図ります。文化芸術の持つ創造性を様々な施策に生かし、コミュニティの活性化を図るなど創造的なまちづくりを進めます。

横浜ならではの文化プログラムを実施し国内外に発信するとともに、賑わいづくりと経済の活性化につなげます。

- 1 横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちに賑わいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します。
- 2 子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組みます。
- 3 一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います。
- 4 アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との協働を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます。



《取組から生まれるレガシー》

- a 「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上
- b 子どもたちや新進アーティストが横浜をはじめ世界で活躍するチャンスあふれるまちの実現
- c 文化芸術活動の拠点機能の充実や地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援などによる心豊かな市民生活の実現
- d アーティスト、クリエイター、企業、地域の協働体制の確立による創造的活動の展開

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野	横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちに賑わいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① 横浜トリエンナーレ、横浜芸術アクション事業など文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムの推進				
ア 文化プログラムの推進				
<p>東京2020大会開催までの間、横浜トリエンナーレ、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA、横浜音祭りを中核的な取組として実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜トリエンナーレ事業 Dance Dance Dance @ YOKOHAMA(横浜芸術アクション事業) 横浜音祭り (横浜芸術アクション事業) 	<p>H29・32 H30 H31</p>	<p>文化観光局</p>	<p>a 「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上</p>	
② 環境技術を活用したアートイベント(スマートイルミネーション)やユニバーサルな文化事業(パラトリエンナーレなど)の実施				
ア 環境技術を活用したアートイベントの実施				
<p>省エネルギー技術とアーティストの創造性を融合させた、新たな夜景の創造を試みる横浜ならではの国際アートイベントを実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートイルミネーション事業 	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>文化観光局</p>	<p>a 「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上</p>	
イ ユニバーサルな文化事業の実施				
<p>障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルとの協働により、新たな芸術表現を生み出す現代アートの国際展を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 	<p>H29・32</p>	<p>健康福祉局 文化観光局</p>	<p>a 「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上</p>	

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野	子どもたちの豊かな感性や創造性を育む文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組めます		
	主な取組の内容	目標時期	所管局区 取組から生まれるレガシー
① 子どもたちの文化芸術体験の充実			
ア 横浜トリエンナーレ事業を通じた次世代育成			
	横浜トリエンナーレ事業において、子どもたちが展覧会を鑑賞する機会をつくるなど、世界の芸術作品を身近に感じることができる取組を進めます。	～H32 (H33以降も継続予定)	文化観光局 b 子どもたちや新進アーティストが横浜をはじめ世界で活躍するチャンスあふれるまちの実現
イ 横浜芸術アクション事業を通じた次世代育成			
	横浜芸術アクション事業（横浜音祭りやDance Dance Dance @ YOKOHAMA）において、学校にプロのアーティストを派遣し、ワークショップの開催などを通じて、次世代育成に取り組めます。 ・横浜芸術アクション事業（次世代育成）	～H32 (H33以降も継続予定)	文化観光局 b 子どもたちや新進アーティストが横浜をはじめ世界で活躍するチャンスあふれるまちの実現
② 新進アーティストの発掘・育成・支援			
ア プラットフォームの設立・運営			
	アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体が出会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組めます。	H29～H32 (H33以降も継続予定)	文化観光局 b 子どもたちや新進アーティストが横浜をはじめ世界で活躍するチャンスあふれるまちの実現

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野	一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① 地域における文化芸術活動の拠点機能の充実				
ア 障害のある方の文化芸術活動を支援する環境及び仕組みの整備				
<p>障害のある方の文化芸術活動を支援する環境及び仕組みを整備するため、課題の抽出や人材育成研修、芸術分野のジャンルを問わず多彩な企画展の開催等を通じて、関係団体をネットワーク化し、協議会機能の構築を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者芸術活動支援ネットワーク構築事業 	<p>H29～32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局</p>	<p>c 文化芸術活動の拠点機能の充実や地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援などによる心豊かな市民生活の実現</p>	
② 地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援				
ア 横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトの構築				
<p>世界の注目が集まるこの時機を捉え、①鑑賞したい人、②発信したい人、③調べたい人（アーティストやアーカイブ）など、横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトを構築し、世界に向けて文化芸術創造都市・横浜のプレゼンスを高めるための準備を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的文化芸術創造都市情報発信WEBサイトの構築 	<p>H31</p>	<p>文化観光局</p>	<p>a 「文化芸術創造都市 横浜」のプレゼンス向上 b 子どもたちや新進アーティストが横浜をはじめ世界で活躍するチャンスあふれるまちの実現 c 文化芸術活動の拠点機能の充実や地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援などによる心豊かな市民生活の実現 d アーティスト、クリエイター、企業、地域の協働体制の確立による創造的活動の展開</p>	

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野	アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との協働を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
①企業やNPO、大学等と連携したアーティスト・クリエイターの集積とビジネス機会の創出				
アプラットフォームの設立・運営《再掲》				
<p>アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体が出会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組みます。</p>	<p>H29～32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>文化観光局</p>	<p>d アーティスト、クリエイター、企業、地域の協働体制の確立による創造的活動の展開</p>	
②アーティスト・クリエイター同士のネットワークづくり				
アプラットフォームの設立・運営《再掲》				
<p>アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体が出会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組みます。</p>	<p>H29～32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>文化観光局</p>	<p>d アーティスト、クリエイター、企業、地域の協働体制の確立による創造的活動の展開</p>	

柱4 横浜を世界に魅せる

<考え方>

横浜のプレゼンスやブランド力を高めるためのシティプロモーションを展開し、文化芸術創造都市、環境未来都市、世界に開かれた国際都市、ビジネスチャンスあふれる都市など、横浜が持つ様々な姿を世界に魅せていきます。

また、国内外からの誘客を強化し、観光客など来訪者の滞在環境や回遊性を一層充実させるほか、MICE機能の強化やビジネス環境の向上を進め、さらなる賑わいと活力を創出します。

- 1 「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくり」を進めます。
- 2 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化（花）等により、来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます。
- 3 再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します。
- 4 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します。



《取組から生まれるレガシー》

- a 「選ばれる都市 横浜」の実現
- b 世界のモデルとなるスマートシティ横浜の実現
- c 快適な滞在環境の整備（案内サインの多言語化、通信環境の向上、駅周辺のバリアフリー、花や緑があふれるまち）
- d 「国際的なMICE拠点都市」の実現

柱4 横浜を世界に魅せる

分野	「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくり」を進めます			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① 横浜ならではの魅力創出とシティプロモーションの展開				
ア 横浜都心のまちづくりや、広域ネットワークの整備による、都市の魅力向上				
<ul style="list-style-type: none"> 横浜都心（都心臨海部及び新横浜都心）のまちづくりや、広域ネットワークの整備により、都市活力を向上させ、多くの人を惹きつける都市づくりを推進します。 ○横浜駅周辺地区（（仮称）横浜駅西口開発ビルや駅前広場等周辺基盤の整備） ○みなとみらい21地区（国際業務機能の集積及び観光・エンターテインメントの推進） ○関内・関外地区（新市庁舎整備及び周辺とのアクセス性・回遊性向上の取組（大岡川横断人道橋整備等）、現庁舎周辺のまちづくり等） ○山下ふ頭周辺地区（都心臨海部の新たな賑わい拠点の形成に向けた再開発の推進） ○東神奈川臨海部周辺地区（区画整理や再開発等による新たなまちづくりの推進） ○新横浜都心（都市環境の変化に適應した、適正な土地利用およびまちの活性化の推進） ○横浜環状北西線の整備による、広域ネットワークの形成 		H29～32 (H33以降も継続予定) ※新市庁舎整備 ～H32 H32	都市整備局 港湾局 道路局 総務局	a 「選ばれる都市 横浜」の実現
イ シティプロモーションの展開				
<ul style="list-style-type: none"> 横浜の認知度やブランド力向上を図るため、ターゲットに応じた効果的な手法により、プロモーションを展開します。 ・都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの実現に向けた実証実験を行います。 		H29～32 (H33以降も継続予定)	文化観光局	
ウ 国内外からの集客の推進				
国内外からの集客のため、誘客プロモーションと迎賓・観光施設の機能強化を推進します。 ○メディア・旅行会社等に対して、旅行商品の造成を目的とする現地プロモーションや招へい等を実施 ○船会社・ランドオペレーター等に対して、クルーズツアー造成を目的とするセールスを実施 ○国指定名勝三溪園を維持・保存するとともに、国内外からの集客及び日本文化発信の拠点として活用		H29～32 (H33以降も継続予定)	文化観光局	
② インバウンド対応強化など千客万来のまちづくり				
ア 外国人観光客の受入環境の充実				
<ul style="list-style-type: none"> ・多文化に対応した受入・誘客を推進します。（ムスリム旅行者の受入環境整備、案内機能の充実） ・市内の多言語化対応強化を促進します。（市内事業者向け研修の実施、ホームページの多言語化対応、外国人来訪者の情報接触ポイントの機能拡充） ・来日外国人等が利用可能な医療機関や、災害発生時の避難先など、安心な滞在に向けた情報をスマートフォンにより多言語で提供できるアプリを開発します。 		H29～32 (H33以降も継続予定) H30～32	文化観光局 国際局	a 「選ばれる都市 横浜」の実現
イ 商店街のインバウンド対応強化への支援				
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客が訪れやすい環境づくりに取り組む商店街に対して、ハード整備（Wi-Fi環境、免税手続きカウンター等）やソフト事業（マップやホームページの多言語化等）のみならず、セミナーの開催やコンサルティングなど、多様な支援を行います。 		～H32	経済局	

柱4 横浜を世界に魅せる

分野	来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により、来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(1/3)				
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー	
① バリアフリーの取組や案内サインの多言語化、通信環境の向上などによる快適な滞在環境の提供					
ア 会場周辺駅のバリアフリー化					
<ul style="list-style-type: none"> ・大会を通じて多くの来街者が訪れる鉄道駅のバリアフリー化を行い、誰でも快適に移動できる交通環境を整えます。 ○ J R 関内駅北口 ○ J R 石川町駅南口 	H29 H30	都市整備局	c 快適な滞在環境の整備（案内サインの多言語化、通信環境の向上、駅周辺のバリアフリー、花や緑があふれるまち）		
イ 案内サイン多言語化など、案内環境の向上					
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客も含め、多くの来街者が、迷わず、円滑に目的地に到達できるための案内環境を整えます。 ○案内サイン等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ◇都心臨海部及び新横浜周辺地区において、施設管理者や鉄道事業者などの関係者と連携し、道路・公園・鉄道駅等の案内サインの多言語化、統一化、連続性の確保など、来街者にとって分かりやすい歩行者用の案内・誘導サイン整備の実施 ◇市営地下鉄駅構内案内サインのリニューアル ◇公共サインガイドラインの改定検討 ○道路案内標識について、英語表記の改善や反転文字の活用 	H31 ～H32 H30 H31	交通局 都市整備局 道路局 国際局			
ウ Wi-Fi整備による、通信環境の向上					
<ul style="list-style-type: none"> ・みなとみらい21地区等 ○地区における主要な歩行者空間や結節点の屋外公共空間における、Wi-Fiの早期整備 ・都心臨海部、新横浜 ○公民連携による、来訪者の利便性向上に資する通信環境の整備 	H29 H31	都市整備局			

柱4 横浜を世界に魅せる

分野	来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により、来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(2/3)		
	主な取組の内容	目標時期	所管局区 取組から生まれるレガシー
<p>エ 良質な宿泊施設の立地促進による、滞在環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 都心臨海部や新横浜を対象に、宿泊施設の容積率緩和を通じて、外国人旅行者ニーズにも対応した良質な宿泊施設の立地を促進します。 	<p>H29～32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>都市整備局 建築局</p>	
<p>オ きれいな街並みに向けた環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 清潔な街並みによる、居心地の良い環境の実現に向けて、会場周辺を対象に、以下の取組を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ○歩道や市所有地・市所有施設について、大会期間にあわせた清掃等の実施 ○会場周辺や繁華街などのエリアについて、大会期間中、昼間の時間帯にごみが置かれないう、焼却工場に夜間搬入可能な環境整備の実施 ○多くのお客様を迎える場所の、望ましい公共的機能（公衆トイレ・喫煙所）の検討、整備 ○公衆トイレ案内の多言語化、外国人向け利用マナー表示板の設置及び洋便器化の推進 ○大会期間にあわせてポイ捨て・歩行喫煙防止パトロールを集中的に実施するほか、臨時喫煙場所の設置 喫煙禁止地区の標識・標示・看板等の多言語化を進めます。 	<p>H30～32 H30</p> <p>H29～32 H29～30 H31～32 H30～32</p>	<p>資源循環局</p>	<p>c 快適な滞在環境の整備（案内サインの多言語化、通信環境の向上、駅周辺のバリアフリー、花や緑があふれるまち）</p>
<p>カ 快適な滞在を下支えする、安全・安心なまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者数1日10万人以上の駅（市内21駅）等を対象に、鉄道事業者によるホーム柵の整備を促進します。 警察等と連携した合同査察を定期的を実施するなど、繁華街における治安対策を強化します。 	<p>H29～32 H29～32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>都市整備局</p>	
<p>② 花や緑による賑わいの創出</p>			
<p>ア 都心臨海部の緑花による賑わいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園等の公共施設を中心に、緑花によるまちの賑わいづくりを進めます。 	<p>～H32 (H33以降も継続予定)</p>	<p>環境創造局</p>	<p>c 快適な滞在環境の整備（案内サインの多言語化、通信環境の向上、駅周辺のバリアフリー、花や緑があふれるまち）</p>
<p>イ 第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 都心臨海部の緑化をはじめ、郊外部での緑の取組を含めて、緑や花で美しい街、横浜を内外にアピールします。 	<p>～H29</p>	<p>環境創造局</p>	

柱4 横浜を世界に魅せる

分野	来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により、来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(3/3)		
	主な取組の内容	目標時期	所管局区 取組から生まれるレガシー
③ 都心臨海部における新たな交通による回遊性の向上			
ア 都心臨海部における回遊性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・都心臨海部において、来街者の利便性を更に高めるため、「高度化バスシステム」(連節バスを活用した新たな交通)を導入します。 ・河川や内港地区を中心として、市民等への開放を積極的に行う取組を官民協働で進めるため、水上交通や水陸両用バスを軸とした新たな水辺の賑わい方策を推進します。 ・都心臨海部における現エリアのポート拡充、及びエリア拡大を図り、コミュニティサイクルの更なる利便性向上を推進します。 	H32 H32 ~H32 (H33以降も継続予定)	都市整備局 交通局 港湾局	c 快適な滞在環境の整備(案内サインの多言語化、通信環境の向上、駅周辺のバリアフリー、花や緑があふれるまち)

柱4 横浜を世界に魅せる

分野	再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① エネルギーマネジメントの推進・再生可能エネルギー・水素等の活用	ア 燃料電池自動車等の活用	～H31	温暖化対策統括本部 環境創造局	
	・燃料電池バスや電気自動車などの環境車両を、会場・イベント等で活用することを検討します。			
イ 再生可能エネルギーの活用及びプロモーション	・大会期間中の会場での再生可能エネルギー等の活用（グリーン電力証書、市内公共施設での発電、EV・FCVによる給電など）や、焼却工場の余剰電力の活用（会場への自己託送）を検討します。	～H31	温暖化対策統括本部 資源循環局	b 世界のモデルとなるスマートシティ横浜の実現
	・市内4か所の焼却工場を環境スポットとして、ごみ焼却により得られる再生可能エネルギーのプロモーションを行います。			
	○焼却工場で発電した電力で、ごみ収集車を充電するシステムの導入	H31		
	○金沢工場、鶴見工場において、隣接する下水道処理施設と連携し、大会期間中、再生可能エネルギーであるバイオマス発電のPRとして、見学受入の充実や焼却工場ライトアップ等の実施	H31		
② 環境に配慮したライフスタイルの推進	ア 環境に配慮したライフスタイルの推進	～H32 (H33以降も継続予定)	温暖化対策統括本部	
	・大会に向けて、公共交通の利用など温暖化対策の実践等、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発活動を推進します。	～H31		
	・市民や市内企業の省エネ等による温室効果ガスの排出削減を活用した大会関連イベント等のカーボンオフセットを検討します。			b 世界のモデルとなるスマートシティ横浜の実現
イ 3Rの推進や、食品ロス削減の取組の、世界への情報発信	・マイバッグ・マイボトルなどのリデュースの取組や、ごみの分別・リサイクルを紹介することで、横浜が推進している3R行動をPRします。	～H32 (H33以降も継続予定)	資源循環局	
	・国際機関と連携しながら、世界の食糧事情と横浜市の食品ロス削減の取組を世界に情報発信し、資源の重要性をPRします。			
③ みなとみらい21地区を中心に、スマートなまちづくりに向けた環境ショーケースとしての取組の推進	ア みなとみらい2050アクションプランにもとづくスマートなまちづくりの推進	H30	温暖化対策統括本部	
	・「エネルギー」「グリーン」「アクティビティ」「エコ・モビリティ」の4分野において、それぞれが連携したスマートなまちづくりを推進します。			b 世界のモデルとなるスマートシティ横浜の実現
	○パシフィコ横浜等にコージェネレーションシステムを導入し、地域冷暖房施設と連携するなどの、新たな取組の推進	H32		
	○第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催を契機とした、歩いて楽しめる緑化空間の創出			
	○ICTなど、先端技術を活用したイベントの実施			
	○国内で実用化・技術開発の進むパーソナルモビリティなど、多様な次世代交通の体験の場の創出			

柱4 横浜を世界に魅せる

分野	世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します			
	主な取組の内容	目標時期	所管局区	取組から生まれるレガシー
① MICE機能や客船の受入環境の強化				
ア MICE機能の強化				
<ul style="list-style-type: none"> 新たなMICE施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）に新たなMICE施設を整備します。 ○横浜駅方面からのアクセス性を向上させるため、臨港幹線道路を横断し、新たなMICE施設及び臨港パークに連絡する歩行者デッキを整備します。 		H32	文化観光局 都市整備局 港湾局	
イ 客船の誘致・受入機能の強化				
<ul style="list-style-type: none"> 大さん橋国際客船ターミナルのサービス拡充 <ul style="list-style-type: none"> ○出入国管理審査用ブースを増設し、大型客船寄港時の出入国審査に要する時間を短縮するなど、サービス拡充を図ります。 ○大さん橋1号線の渋滞緩和策として車線の拡幅整備を実施します。 新港地区客船ターミナル整備 <ul style="list-style-type: none"> ○大さん橋国際客船ターミナルを補完する客船バース及び公民連携事業により客船ターミナル施設等を整備します。 超大型客船の受入機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ○大黒ふ頭において、自動車専用船岸壁の改良に併せて、ベイブリッジを通過できない超大型客船の受入機能を強化します。 		~H32 (H33以降も継続予定) H29 H30	港湾局	d 「国際的なMICE拠点都市」の実現
② ビジネス環境の向上とプロモーションの充実によるビジネス機会の拡大				
ア 企業立地における、横浜の魅力の発掘・構築				
<ul style="list-style-type: none"> 外国企業や外資系企業の目線で、横浜ならではの魅力を把握・構築し、発信します。 		~H32 (H33以降も継続予定)	経済局	
イ 外資系企業誘致に向けた効果的なプロモーション				
<ul style="list-style-type: none"> トップセールスにより、横浜への投資や進出を呼びかけるプレゼンテーションを実施します。 オンライン相談窓口の設置・リアリティのある横浜の魅力の発信を行います。 			経済局	d 「国際的なMICE拠点都市」の実現

3 両大会に向けた関連取組

※「2 取組」に掲載している柱1から柱4までの取組以外で、関連する取組を掲載しています。

(1) 「柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし」関連

競技会場における各種計画（警備、安全確保、救急医療体制など）の策定・実施

- ・帰宅困難者に対する一時滞在施設マップの作成検討（総務局）

(2) 「柱2 スポーツを通じて横浜を元気に」関連

オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上

- ・市立高校ゆかりのオリンピック・パラリンピック出場経験者による講義・講演（教育委員会）

市民参加型スポーツイベントの充実や横浜文化体育館再整備等による場の拡充など、地域スポーツの振興

- ・総合型地域スポーツクラブの啓発及び育成・活動支援（市民局）
- ・地域スポーツ団体や地域レクリエーション団体との連携（市民局）
- ・スポーツ・レクリエーション活動の充実（市民局）
- ・スポーツ推進委員の育成・活用（市民局）

市内小・中・高等学校・特別支援学校と連携した取組

- ・学校独自指標を活用した体力向上1校1実践運動の運営改善（教育委員会）
- ・体力・運動能力調査の実施、結果の活用（教育委員会）
- ・「体力向上研究校」の先進的な取組を支援、全校への波及（教育委員会）
- ・地域人材の協力による、朝や休み時間・放課後等を活用した外遊びの推進（教育委員会）
- ・「部活動の指針【改訂版】」に基づく部活動の運営・改善（教育委員会）
- ・小中連携した教員の指導力向上（教育委員会）
- ・知・徳・体バランスのとれた子どもの育成を目指した「体育・健康プラン」の運営改善（教育委員会）
- ・魅力ある体育科・保健体育科授業の実践（教育委員会）
- ・運動習慣・生活習慣の改善（教育委員会）

ウォーキングなどの運動による生活習慣の改善や、日常生活の中で取り組める仕組みなどによる健康づくりの推進

- ・横浜市スポーツ医科学センターとの連携・活用（健康福祉局、市民局）

高齢者も楽しむことができるスポーツの推進ほか生涯スポーツの推進

- ・地域の高齢者サークルの活動支援（市民局）

(3) 「柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり」関連

環境技術を活用したアートイベント（スマートイルミネーション）やユニバーサルな文化事業（パラトリエンナーレなど）の実施

- ・アーツコミッション事業（クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ、アーティスト・クリエイターのための事務所開設支援助成）（文化観光局）

子どもたちの文化芸術体験の取組の充実

- ・東京藝術大学映像研究科と連携した次世代育成事業（文化観光局）
- ・芸術文化教育プログラム推進事業（文化観光局）

新進アーティストの発掘・育成・支援

- ・クラシック・ヨコハマ推進事業（文化観光局）

地域における文化芸術活動の拠点機能の充実

- ・文化施設整備事業（文化観光局）
- ・創造限界形成事業、ナショナルアートパーク構想推進事業、地域再生まちづくり事業（初黄・日ノ出町地区）（文化観光局、都市整備局）

地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援

- ・地域再生まちづくり事業（初黄・日ノ出町地区）（文化観光局・都市整備局）
- ・地域文化サポート事業（文化観光局）

企業やNPO、大学等と連携したアーティスト・クリエイターの集積とビジネス機会の創出

- ・創造的ビジネス・コーディネート事業（文化観光局）

(4) 「柱4 横浜を世界に魅せる」関連

横浜ならではの魅力創出とシティプロモーションの展開

- ・東京2020大会と同年に開催予定の「第2回全日本製造業世界コマ大戦2020」の横浜開催を誘致し、ものづくりのオリンピックとして発信（経済局）
- ・国内セールスプロモーション事業（文化観光局）・ニューツーリズム（着地型観光）の推進（文化観光局）
- ・ホテルなどの集客施設の耐震化の促進と公共建築物を含めた耐震性のPR（建築局）
- ・給水スポット等による、良質な横浜の水道水のPR（水道局）

インバウンド対応強化など千客万来のまちづくり

- ・空港リムジンバス等の深夜早朝対応をはじめとして、羽田空港等へのアクセス強化やサービス水準向上を図るため、公民で連携しながら取組を推進（政策局、都市整備局）
- ・横浜環状南線・横浜湘南道路の平成32年度の開通に向けて、沿線各地で工事を推進中（道路局）
- ・山下ふ頭再開発供後の来街者の交通円滑化を図るため、臨港幹線本牧ふ頭～山下ふ頭間の整備の推進（港湾局）

バリアフリーの取組や案内サインの多言語化、通信環境の向上などによる快適な滞在環境の提供

- ・バス・地下鉄の乗り方案内などの多言語化（交通局）
- ・市営交通の運賃・経路等検索システムの他言語対応を検討（交通局）
- ・市営地下鉄の運行状況や市営交通のPR、ニュース、天気等の情報を提供する「多目的デジタル案内板」を全駅に設置（交通局）
- ・観光案内所運営による来訪者支援（文化観光局）
- ・歩行者案内地図等の作成（文化観光局）

花や緑による賑わいの創出

- ・未整備である臨港パークの先端部を親水性のある緑地として整備（港湾局）

エネルギーマネジメントの推進・再生可能エネルギー・水素等の活用

- ・自立分散型電源の導入とBEMS活用によるエネルギー連携や蓄電池などの導入による仮想発電所の構築を市域の施設に展開（温暖化対策統括本部）
- ・平常時のエネルギー利用の効率化、非常時の防災用電源確保を推進（温暖化対策統括本部）

みなとみらい21地区を中心に、スマートなまちづくりに向けた環境ショーケースとしての取組の推進

- ・環境に配慮した先進的住宅のPR等（建築局）

MICE機能や客船の受入環境の強化

- ・WEBやSNSを活用した観光MICE最新情報の発信（文化観光局）
- ・MICE（中大型の国際会議や大型集客イベント等）の誘致及び開催支援の実施（文化観光局）

4 主なスケジュール

	2016年(H28)	2017年(H29)	2018年(H30)	2019年(H31)	2020年(H32)
主要イベント	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020大会 追加種目決定(8月) ●リオデジャネイロ 2016大会(8~9月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●第50回アジア開発 銀行年次総会(5月) ●第33回全国都市緑化 よこはまフェア(3~6月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ラグビーワールドカップ 2019TM開幕1年前 イベント 	<ul style="list-style-type: none"> ●ラグビーワールドカップ 2019TM(9~11月) ●東京2020大会 テストイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020大会(8~9月) ●新たなMICE施設供用 開始(みなとみらい21 中央地区)
(1)両大会の成功に 向けてオール 横浜でおもてなし	<ul style="list-style-type: none"> ●リオ大会報告会(9月頃) ●事前キャンプ受入調整 	<ul style="list-style-type: none"> ●競技開催に向けた各種 計画の策定 ●ラグビーワールドカップ ファンゾーン設置検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020大会 大会運営ボランティア 募集・育成 	<ul style="list-style-type: none"> ●ラグビーワールドカップ 2019TMファンゾーンの 設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●英国オリンピックチーム の事前キャンプの受入
機運の醸成(カウントダウンイベントの開催、各区における盛り上げイベント等の実施、既存イベントとの連携等)					
(2)スポーツを通じて 横浜を元気に		<ul style="list-style-type: none"> ●「横浜市スポーツボランティ アセンター(仮称)」開設 			<ul style="list-style-type: none"> ●横浜文化体育館サブアリーナ 施設 供用開始予定
オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートとの交流					
	<ul style="list-style-type: none"> ●世界トライアスロンシリー ズ横浜大会/●横浜マラソン 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界トライアスロンシリー ズ横浜大会/●横浜マラソン 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界トライアスロンシリー ズ横浜大会/●横浜マラソン 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界トライアスロンシリー ズ横浜大会/●横浜マラソン 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界トライアスロンシリー ズ横浜大会/●横浜マラソン
(3)文化芸術の創造性 を生かしたまち づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜芸術アクション事業 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化芸術年にかかるプラット フォームの設立 ●障害者芸術活動支援ネット ワーク構築事業 開始 ●トリエンナーレ/パ°ラトリエンナーレ 	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートイルミネーション事業 ●横浜芸術アクション事業 	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートイルミネーション事業 ●横浜芸術アクション事業 	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートイルミネーション事業 ●トリエンナーレ/パ°ラトリエンナーレ
(4)横浜を世界に 魅せる	<ul style="list-style-type: none"> ●Wi-Fiの整備(MM21地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ●Wi-Fiの整備(MM21地区等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●新港地区客船ターミナルの整備 ●超大型客船の受入機能強化 (大黒ふ頭) ●通信環境の整備(都心臨海部など) 	<ul style="list-style-type: none"> ●歩行者用案内・誘導サインの整備 ●通信環境の整備(都心臨海部など) ●ごみ焼却工場に夜間搬入 可能な環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ●高度化バスシステムの導入 ●新たなMICE施設の整備 (MM21地区)
先客万来のまちづくり、滞在環境の向上、スマートシティの実現、国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市横浜の発信					

取組の成果を『次の世代への贈り物(レガシー)』として遺し、
横浜のさらなる飛躍につなげます。